

<p><b>科目名：口腔保健管理法</b></p>	<p>必</p>	<p>2 単位</p>
<p>( Comprehensive Oral Health Care )</p>		
<p>履修年次/時期：2 年次 後期 授業形態：講義・演習</p>		
<p>担当教員： 中向井政子（実務経験有） 角田 晃（実務経験有） 長谷 徹（実務経験有）</p>		
<p>学修目的</p>	<p>う蝕や歯周疾患の口腔保健管理に加え、周術期や病棟などの OM（オーラル・マネージメント）およびチーム医療の一員としての基本的知識を学び、さまざまな人びとに対する口腔の健康管理に必要な実践力を培い、臨床へ対応できる。また大規模災害時における歯科衛生士の活動の重要性を理解する。</p> <p>CP：2～5， DP：2(1)～(3)，3(1)～(3) に関連する。 科目 No. S2C10H16</p>	
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージ毎の口腔内状況が理解でき、かつ個人に対面した適切な口腔保健管理の実際および評価ができる。</li> <li>2. 永久歯の保護（う蝕予防）、歯周組織の保護（歯周病予防）だけでなく、その他の疾病予防に対応した適切な口腔保健管理ができる。</li> <li>3. 小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解し、適切な口腔保健管理ができる。</li> <li>4. 妊産婦の身体的・心理的特徴を考慮した口腔保健管理ができる。</li> <li>5. 成人期の口腔保健管理を説明できる。</li> <li>6. 補綴物およびインプラント装着患者に対する口腔管理について説明できる。</li> <li>7. スポーツおよび運動実施者に対する口腔保健管理について説明できる。</li> <li>8. 要介護高齢者に対して、居宅・施設における口腔ケア継続管理ができる。</li> <li>9. 周術期の口腔機能管理について説明できる。</li> <li>10. 大規模災害時における歯科衛生士の役割について理解する。</li> <li>11. チーム医療についての基礎的な知識を得ることができる。</li> <li>12. 口腔保健管理指導を行なった時の業務記録を記載できる。</li> <li>13. 口腔保健管理と QOL との関連が説明できる。</li> <li>14. 地域歯科保健活動における歯科衛生士の役割を説明できる。</li> </ol>	
<p>授業概要</p>	<p>口腔保健管理法は業務系主要 3 科目を総合的にとらえたもので、歯科衛生士が臨床において業務をする時に重要な分野である。歯科衛生士が臨床の場で個々の対象に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を養う。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>本試験（85%）、授業参加度、提出物（15%）により評価する。</p> <p>試験に対するフィードバックは掲示で行う。</p>	
<p>予習・ 復習時間</p>	<p>【予習】2 時間 【復習】2 時間</p>	
<p>教科書</p>	<p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 他</p>	
<p>参考書</p>	<p>「災害歯科医学」医歯薬出版 ウィルキンス歯科衛生士の臨床 原著第 11 版 医歯薬出版 その他随時紹介します。</p>	
<p>オフィス- 連絡先</p>	<p>中向井政子 12:30～13:20 16:40～17:00（3号館2F 研究室）nakamukai@kdu.ac.jp 角田 晃 16:30～17:00（4号館2F 研究室）tsunoda@kdu.ac.jp 長谷 徹 16:30～17:00（4号館2F 研究室）nagatani@kdu.ac.jp 不在の場合はメールをいただければ確実に対応できます。</p>	

